

講 評

2021 年度学会賞 単行本の部 授賞作品

Keikoh Ryu (劉慶紅), *The Impact of Organizational Ethical Climate on Organizational Commitment and Job Performance: An Economic Ethics Analysis of Japanese-funded Manufacturing Enterprises in China*, Springer; 1st ed. (2020.4.4).

学会賞委員長

大石芳裕 (明治大学名誉教授)

本書は、組織倫理風土が組織のコミットメントとジョブパフォーマンスに及ぼす影響を定量的に分析したものである。組織倫理風土については、それが「倫理」や「風土」といった特性上、これまでは定性分析が中心であった。最近では定量分析の試みもいくつかなされているが、組織倫理風土が組織のコミットメントとジョブパフォーマンスに及ぼす影響を説得的に明らかにしたものはなかった。この点が本書の最大の貢献であろう。

著者は中国出身であり、かつ日本の大学（立命館大学）に勤務することから、中国における日系製造多国籍企業を対象に分析を行っている。中国は日系製造多国籍企業にとって重要な進出国であり、その子会社数も多い。著者にとって、端緒的分析対象としては妥当と言えよう。また、本書は著者の本務校が後援する「稲盛和夫経営哲学研究プロジェクト」の一つの成果であり、その意味で「組織倫理風土」を主たる分析対象としたことも首肯できる。

統計分析手法としては主成分分析（PCA）や構造方程式モデリング（SEM）を手堅く行い、組織倫理風土が組織のコミットメントとジョブパフォーマンスに及ぼす影響を明らかにしている。このことは学術的貢献も大きいですが、組織のコミットメントやジョブパフォーマンスを向上させたいければ組織倫理風土を整備しなければならないということを実証した点で実務的貢献も著しい。企業の不祥事が頻発している昨今、組織倫理風土の整備が「べき論」ではなく経営に不可欠なものであることを示した意義は大きいと言わざるを得ない。

本書は日系製造多国籍企業を対象としているが、同じ日系製造多国籍企業でも本社の姿勢の違いや進出の歴史の違い、産業の違い、資本構成の違いなどがある。今後はさらなるブレイクダウン研究が必要だろう。また、中小企業やサービス企業の場合あるいは他の外資系企業や中国企業の場合も同じことが言えるかどうか、さらなる検証が必要である。中国という特殊な政治制度における影響も、他の国における同様の研究が行われることによって明らかになると思われる。そのような残された課題は、とても一人でできるものではなく、本書を手掛かりに多くの研究者が追試を行う必要がある。本書はそのような研究の発展可能性も残している。また、著者が実施はしたけれども敢えて取り上げることを封印した定性分析（事例研究）も、本書の結論の豊富化のために是非取り上げてもらいたい。

学会賞審査員は、全員一致して、本書を 2021 年度（第 28 期）学会賞（単行本の部）に値するものと判断する。